

いばらき少年剣友会 史上初 団体・個人全国制覇



第29回全国選抜少年剣道大会
が、猛暑の中八月十、十一日の両
日日本武道館で行われ、いばらき
少年剣友会が小学団体・個人の二

部門において見事全国制覇を成し
遂げた。
「夏つと燃える夏」の大会スロ
ーガンのもと、全国から予選を勝
ち抜いた団体戦四百四十六チーム、
個人戦六十三人で争われ、日本一
を目指した熱戦が繰り広げられた。
同大会は、これまで九州勢が上位
を独占しており、小学団体におい
ては東日本勢の優勝は初めて。ま
た、同個人戦においても、雨谷武
蔵君が日本一となり大会史上初の
団体・個人の両部門全国制覇とな
った。

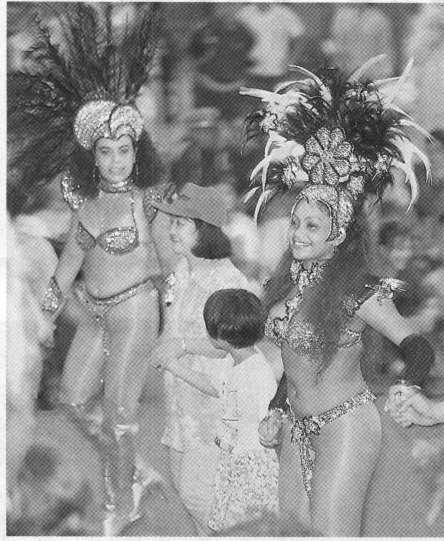


全国高校総体剣道の部
町内剣士大活躍

八月一日から三日まで富山県で
行われた高校総体(インターハイ)
に出場した町内出身の平岡右照君
(水短水戸校)がみごと、個人戦
において三位に入賞しました。(写
真平岡君はまだ二年生ということ
で、関係者から高い評価を受け、
今後の活躍が大いに楽しみです。
また、団体戦に出場した国分晃
君(日大岩瀬校)もベスト8に入
り、平岡君と共に大会参加者の中
で優れた選手に贈られる優秀選手
賞が授与されました。

◎個人戦優勝
雨谷 武蔵(駒場小六年)
◎団体戦優勝選手
先鋒 遅野井裕樹(長岡小四年)
次鋒 一瀬 雅彦(駒場小六年)
中堅 鈴木 洋平(沼前小五年)
副将 雨谷 大輔(駒場小五年)
大将 雨谷 武蔵(駒場小六年)

'94 ふるさとふれあいましゅ



軽快なリズムでサンバを踊り気分は最高

八月二十一日役場内町民広場
を舞台にふるさとふれあいましゅ
が盛大に開催された。
当日は雨天というあいにくの天
気となりましたが、五千人を超え
る観客で賑わった。
行政主導から町民主体となった

このまつりは、さらにグレイドア
ップし、町民総参加による手づく
りまつりにふさわしくステージと
参加者が一体となり会場内は大い
に盛りあがった。
町婦人団体による茨城町音頭ほ
かオープニングセレモニーでスタ

午後十時五十分、花火を合図に
実行委員長の開会宣言。ヨーロッ
パ旅行等豪華賞品の当たるおまつ
りくじの抽選やクイズもあり会場
はおおいに盛りあがった。また、
ちびっこ広場では、子供達の夢を
乗せて走るわくわく電車や、うな
ぎの掴み取り、ポップコーン実演
等にチャレンジする子供達で賑わ
った。

イロ市よりエスコラ・デ・サン
バチームを招待、カラフルなユニ
ホームをまとったダンサーが軽快
なリズムののりサンバを披露。ま
た、盆踊り大会では、思い思いの
衣装に身をまとった参加者達が所
狭しと踊り、熱演のあまり飛び入
りも続出、まつりムードは最高潮
に達した。しかし、花火大会は雨
のため明日に延期された。
雨も上がり猛暑の戻った二十二
日午後八時、一万人の見物客のな
か、夏祭りのクライマックスであ
る一千発の打ち上げ花火が、夜空
を彩ってふるさとふれあいましゅ
は幕を閉じた。
また、二十日、午後二時にスタ
ートした二十五時間ソフトボッ
ル大会は、百七イニングを消化、百
七十四対百六十七で紅組が勝利
をおさめた。

町立幼稚園児募集

入園資格	4歳児(2年保育)平成2年4月2日~平成3年4月1日生まれ 5歳児(1年保育)平成元年4月2日~平成2年4月1日生まれ *茨城町に住所登録のある幼児 *通園については、保護者の責任で送迎のできる方
入園手続き	所定の入園願書を希望する幼稚園に提出する (願書用紙は各幼稚園か町教育委員会学校教育課にあります)
願書受付	10月11日(火)~10月29日(土) 9:00~16:00 ただし 水曜日9:00~13:00 土曜日9:00~12:00

幼稚園名	募集定員		所在地	電 話
	4歳児	5歳児		
長岡幼稚園	40名	若干名	長岡3168	92-4019
川根幼稚園	40名	若干名	下飯沼652	92-5147
上野合幼稚園	40名	若干名	小幡2332-28	92-5546
沼前幼稚園	40名	若干名	宮ヶ崎1443	92-9209
大戸幼稚園	40名	若干名	大戸1893	92-8358

*入園手続き、費用等の詳しいことは、各幼稚園、町教育委員会学校教育課へお問い合わせください。 学校教育課 ☎92-1111 内線212

子供たちとの交流に大喜び ときわ木園



子供たちの踊りを楽しむお年寄り

ときわ木園

昨年の九月にオープンした特別
養護老人ホーム「ときわ木園」(江
幡幸子園長)で、敬老の日に入所
しているお年寄りの長寿を祝い敬
老会が開かれました。
当日は、下土師明神ばやし保存
会(皆藤弘代表)とガールスカ
ウト(斉藤宣子団員長)のメンバ
ーが訪れ、お年寄りを慰問しまし
た。
ごちそうが並び、花で飾られた
テーブルをかこんだお年寄りたち
五十一人は、ひ孫のような子供た
ちのひよっこ踊りや懐かしい歌
簡単なゲームなど多彩な催しに大
喜び。時のたつのも忘れて楽しい
一時をすごしました。

ぶんげい

《短歌》

コスモスの淡いピンクは花ざかり
秋のけはいが遠く広がる
村田 文子(大戸)
黄金色稲穂の揺る田んぼ道いな
ごの群はのどかに遊ぶ
野原 きよ(昭和)

田や畑を吾生涯の友として培いき
たりて古稀のちかづく
鶴町あい子(常井)
虫干しの母の賞状しつとりと明治
の御代の紙は温くとし
上田千代子(前原)
墓雑の手を休むれば雲間より夕日
の射して夫の墓標を照らす
神原ふみ枝(奥谷)

高価なる鉢植蘭を吾が部屋に飾り
て嫁の心安らぐ
清水 もと馬 渡
子と生きし先暗やみのいばら道
かすかな光われは求めて
市毛 久子(長岡)

ほとぼしる冷たき清水求めて手
にぞすくいて口に含みぬ
鈴木 明子(若宮)
初秋の風にせわしく蟬鳴きてコー
ラスびびく水戸城の跡
酒井 幸枝(中山)
暑い夏あえきあえきて日を送り歌
も成らずに涼風の吹く
海老沢芳江(長岡)

盛夏の光交差すパイパスのガラス
透して摩天楼たつ
武田 一子(長岡)
あれが菊つぎが朝顔嫁の声打ち揚
げ花火よ止せも見む
引田とみ子(中山)

ドラマ見てすぐ涙ぐむこの頃は老
の深さのいよよ身にしむ
黒田 綾子(大戸)
ナツメロに映される歌手も年さ
びて吾もこの秋古稀を迎ふる
佐久間 洸(木部)

夫婦旅いつもと違う仲の良き知ら
ぬ地に来し銀山温泉
藤井 功子(長岡)
曆にて秋を告ぐれど日ざしには暑
さ残りて涼待ち遠し
鶴町すみ子(常井)

数多く人を助けて己が身をはかな
く逝きし医師の惜しまる
鳥羽清子(鳥羽田)
色づきし稲田の中に佇めば筑波は
遠く夕映の中
道川 たい(南川又)

ししむらを戦野に晒すを光栄と兄
の遺書読む五十年忌に
本田ときを(長岡)
(評)一猛暑の夏も去り、虫の音と共
にすがしい秋がまじりました。あら
ためて自然に感入したいと思いま
す。御健詠をお祈りいたします。

《俳句》
灯籠のゆらぐ明りを覗き過ぐ
道川 たい(南川又)
逝く夏を惜しむが如き蟬の声
鶴町あい子(常井)
四度の滝岩を走るや合歡の花
黒須レイ子(駒渡)

湯を出でて新涼を知る山の宿
渡辺ふさ子(前田)
不意打ちの雷雨西より来りけり
本田ときを(長岡)
通り雨栗の爽いくつこぼれたる
野原 きよ(昭和)
長き夜を星と語らう虫の声
鶴町すみ子(常井)

鳴き足りずまた鳴きに來し法師蟬
近馬 つる(大畑)
名月や夜露に木々の葉も光り
村田 文子(大戸)
「暑いね」と会ふ人ごとに今年の夏
閑さよ蛙の声に立ち話
鳥羽清子(鳥羽田)

(評)一第一句、盆灯籠だろう。中に
入れた明りがゆらゆらしているのちよ
つと気をとめ、立ち止まって見たと
いう。高灯籠か「切子」か、あるいは
「絵灯籠」の類か。いずれにしても
も風情のある季節の風物に目をと
めた一瞬の心の動きが読み取れる。
第二句、晩夏の感懐第三句、滝し
ぶきとネムの花の色彩が美しい。